

夜の海辺の変わったミジンコ！ ウミホタルを自分で捕まえて幻想的な発光を堪能

広島ジュニア自然科学クラブ
広島干潟生物研究会
(2025/08/05)

海底にそれぞれ自作のトラップを設置しウミホタルの捕獲準備をします。その間、砂浜で夜行性の生き物たちを観察します。その後トラップを引き上げ、ウミホタルを取り出して発光のようすを観察します。幻想的な光に息を呑む瞬間です。採れたウミホタルを真っ暗な海面に放つとそれが刺激となって海面がコバルトブルーに染まり、親も子もキャーと声を上げます。

目 的 自然度の高い海岸に生息する自然や生物を観察し、広島市内の干潟の生物を考える上での基準を自分の中に設ける。また、個々の特色ある生物とその生活の様子を観察し、環境の保全を考える。

内 容 島嶼部にある典型的な前浜干潟に出かけ、発光生物であるウミホタルを採集し、観察する。また夜行性海岸生物の多様性に触れる。

ガイド 広島干潟生物研究会事務局長 くやみつお（元大柿町海辺の生き物調査団長）ほか

日 時 2025年9月13日（土）18:10～20:40 （現地集合、現地解散）

場 所 江田島市切串（駐車台数の制限がありますので、メールでご相談ください。）

持 参 懐中電灯（各自）、タオル、軍手、健康保険証の写し、トラップ（ウミホタルホイホイ；次ページを参照して各自で作ってくる）とエサ（自分で考えて持ってくる）

【あれば便利；動画撮影器具、ミニスコープ、ミニバケツ、防虫スプレー、飲み物】

服 装 運動靴、長袖、長ずぼん。（蚊がいるので、できるだけ肌を出さない工夫）

参加費 無料。

注 意 トイレがないので、宇品港か切串港ですませてからおいでください。

申し込み方法

①「ウミホタル申込」とタイトルをつけてメールで9月11日までに申し込む。

E-mail laboorca@gmail.com なお、今回は電話では受け付けません。

参加者全員の氏名、学校名・学年（成人の場合は「成人」とする。）、代表者の連絡先を下記の【記入例】に従って送信する。

② メール返信を受け取る。

③ 雨天の場合は中止とし、微妙な場合には、当日の午前8時までに判断し干潟研のブログ（<http://kankyouseibutu.blog.fc2.com/>）に載せますので確認してください。

【メールでの申込記入例】

ヒロシマハルオ	成人	船で参加（自家用車で参加）
ヒロシマナツコ	成人	090-7998-6598
ヒロシマアキコ	己斐小2年	

当日の日程

- 18:10 集合、点呼
- 18:20 オリエンテーション、トラップの設置。
- 19:00 砂浜に移動し夜行性動物の観察。ゴミ拾い。
- 20:00 トラップの回収、観察
- 20:40 解散
 - 切串港発広島港行きの最終便は 20:55
 - 切串吹越港発天応行きの最終便は 21:07



- ◆主催 広島ジュニア自然科学クラブ
 - ◆共催 広島干潟生物研究会／科学実験教室ラボ・オルカ
 - ◆支援 広島県環境県民局 環境保全課
- ※この活動は、（一社）中国建設弘済会の助成を受けています。

第5回干潟観察会 参 考 資 料

●広島市内から現地集合場所までの経路

- ①広島港（宇品）―【上村汽船フェリー 30 分】→切串港棧橋―【徒歩 5 分】→現地
フェリー運賃；片道大人 470 円、小人 240 円
- ②呉ポートピア港（天応）―【さくら海運 12 分】―切串吹越港―【徒歩 20 分、車 5 分】→現地
フェリー運賃；大人往復割引 720 円、小人片道 190 円
- ②広島→呉→音戸大橋→早瀬大橋→現地【総時間 1 時間 30 分程度】
広島呉道路料金；片道 970 円

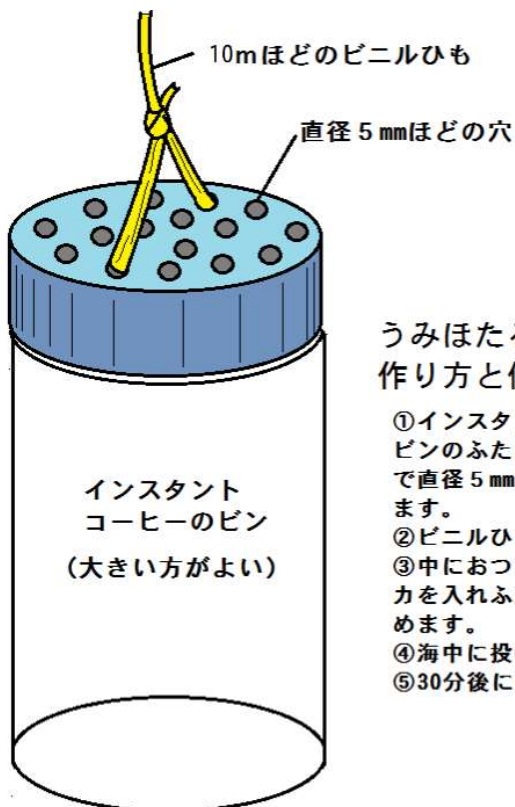
●トラップを自分で作って自分で採集

トラップ（捕獲器；ウミホタルホイホイ）は各自で作って持参してください。多い方が捕獲確率が上がります。ふたの穴開けは、ラボ・オルカ己斐校でできますので、ご相談ください。

ヒモの端には名前を書いたプレートなどをくくって地面に置き、流されない工夫をしてください。エサも各自でご準備ください。オキアミ、さきイカ、かまぼこ、チーズなどが有効です。あれこれ試してみてください。（匂いの強いものの方がいいようです）

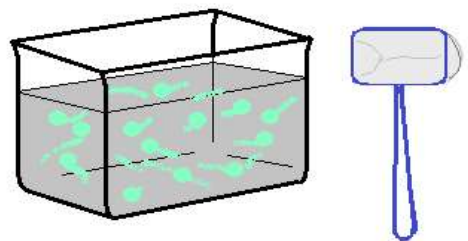
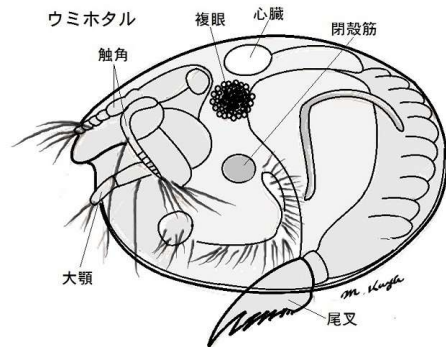
水深が 3、4 m ありますので、ひもは最低でも 5、6 m は必要です。

ビンが軽いと沈みませんので、プラスチックのトラップの場合、中に石などの重りもいっしょに入れます。現地に適した石はほとんどありませんので、ご持参ください。



うみほたるホイホイの 作り方と使い方

- ①インスタントコーヒーのビンのふたにドリルかくぎで直径 5 mm ほどの穴をあけます。
- ②ビニルひもを通します。
- ③中におつまみ用のさきイカを入れふたをしっかりとめます。
- ④海中に投げ入れます。
- ⑤30分後に引き上げます。



小さなプラ水槽と小さな網をセットで持って来れば、採ったウミホタルの泳ぎも観察できます。また、ウミホタルを持ち帰るには、ふたのある容器を準備し、携帯用エアレーションをセットして酸欠を防ぎます。現地の海水をできるだけたくさん持ち帰るか、専門店で人工海水の素を購入して、3%に溶かして用います。

自宅では、飼育している水槽に、9 V 乾電池で電流を流すと発光します。飼育中のエサは、切ったイソメや冷凍オキアミ（釣り具屋で購入）を与えるのが便利です。水替えをして水の腐敗に注意。